

■生徒の学力の状況

全国学力・学習状況調査から、数学は都平均と同レベル、理科は東京都平均より2ポイント高い。しかし、国語は都平均よりも8ポイント低い。特に読むことと、自分の考えをまとめて表現したり、説明をしたりする力が低い。また、どの教科も短答式や記述式の正解率が低く、うる覚えとなっていることが予想できる。まとまった文章をしっかり読ませることや、文章として表現させることが不足していたと考えられる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

授業では、教員の説明を必要最小限として、各自でしっかり教科書を読み込ませるなど、読解力の育成を目標に実施する。また、自分の考えや説明を、しっかり文書としてまとめさせ、タブレットパソコンを使用して、他の生徒との情報の共有を図り、考えをまとめる力や表現力をさらに向上させる。ペンをもって文書を書くことが苦手な生徒でも、タブレットパソコンを使用すると、意欲的に取り組めるといった特徴もあるので、ICT機器のさらなる活用方法を模索する必要

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

課題解決型の授業をより多く実践し、自己を客観的に捉え、自己の課題を発見し、改善策を考え実践できる力を育成する。そのために、板橋区授業スタンダードに則った授業を展開し、生徒が毎時の着地点をしっかり把握し、見通しをもって参加できる授業を実践する。また、授業の振り返りを確実にし、その授業で何がわかったのか、何ができたようになったのか、逆に目標に達しなかったのかをしっかりと把握させ、家庭学習等に結び付けて確実な定着を図る。生徒の学びを深めるためには、自己の考えをしっかりとまとめる力、これを他者に分かりやすく伝える力、他者の意見を聞き自分の考えに取り入れたり修正したりする力が必要である。これらの力を育成するために、指導内容と題材を精選し、緻密な指導計画のもとアクティブラーニングを実践する。具体的には、毎日生徒に家庭学習を実施させ、教員がそれを毎日確認しアドバイスを加えるなどして返却する。月ごとに実施状況を集計するなどして、保護者へ通知することにより保護者を啓蒙し協力を仰ぐ。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
問題解決型・探究型の授業	協働学習の導入	指導と評価と支援の一体化
まずは、課題を発見できるよう発問や授業展開を工夫する。その課題解決に向けて、調べ学習で終わることがないように、必ず調べたことを参考にしながら、自分の考えをしっかりとまとめさせることができる課題設定を行う。	小員数での話し合いの場面を、授業の中で多く取り入れる。タブレットパソコンを活用し、グループ内での話し合いに役立てることはもちろんであるが、クラス全体でも情報共有し、さらに学びを深化させる。	毎時間生徒に授業の振り返りを行わせて、自己の課題に気付かせるとともに、教員は生徒が自ら学びを調整する様子を観察し、評価の一助と知る。また、学びが不十分な生徒については、課題を与えるなどして、個別の支援を行う。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた取組

授業におけるマナー・ルールの徹底	学習環境の充実	教員の指導力向上
授業におけるマナー・ルールについては、本校の現状ではあまり問題となっていないが、特別に支援が必要とする生徒の不規則発言などもあることから、次のように新たにルールを作った。授業中は挙手による発言を基本とし、自由に発言させることによって、生徒の意識や考えを高める場合は、教員が時間を区切ってその中だけ自由に発言してよいものとする。	本校では教科センター方式を採用しているため、各教科教室の活用について特に掲示物等教室の整備に力を入れる。生徒の成果物を掲示することにより、他者の考えを知ることができたり、上級生の成果物を目にできたりすることにより、学習に対する見通しと憧れを抱かせる。また、放課後補充教室を週2回実施、教員が管理する家庭学習の実施といった、生徒を取り巻く全ての学習環境について常に改善を加えていく。	今年度はICT機器の活用に関する研修を行い、効率的・効果的な授業が実践できるよう教員のスキルを向上させる。総合的な学習の時間に関する研修を行い、探究的な学習が行えるよう準備する。また、これにより、各教科での探究的な学習の実践にもつなげ、教員の指導力向上を図る。

